

国際学院新聞

第58号
(編集発行) 国際学院
学校法人 国際学院
〒330-8548
さいたま市大宮区吉敷町2-5
TEL 048 (641) 7468
FAX 048 (641) 7432
インターネットホームページアドレス
http://www.kgef.ac.jp/

主なニュース

- 海外・国内研修、学生支援センター開設……2面
- 私の実習日誌……3面
- オンラインキャンパス、キャリア説明会、介護食士講習会……4面
- 五峯祭、味彩コンテスト、幼児絵画展……5面
- 中学・高校活動報告、海外研究……6面
- ユネスコ活動、中学校五峯祭、修学旅行、通信制高校研修……7面
- 同窓会臨時総会、全国学校給食甲子園……8面

東西文化の架け橋 新校舎誕生

来年3月 完成予定

設備充実、開放感あふれる教室



伊奈キャンパスにて建設中の新校舎(教室棟)について、近況を報告する。5月には、理事長先生をはじめ多くの関係者の参列のもと、地鎮祭が厳かに行われ、本格的な工事が着工されるはこびとなった。その後、地中工事が着工されると、地下深くまで掘り起こされた敷地に深淵が登場し、在校生たちを驚かせ、明るい話題を振りまいた。

10月中旬には、上棟し、その姿はゆつくりと披露されていくことになる。そこから半年の間、新校舎は、

学院関係者や地域の人々をはじめ、在校生や新入生たち、ひいては本校を訪れる海外のユネスコスクール加盟校の生徒たちにとって、未来の教育に対する期待をふくらませる存在として立ち、完成へと向かうだろう。

完成は平成28年3月を予定している。キャンパス内では、西洋文化を体するパルク調の本館やマコトホールと、東洋文化とりわけ

CTを活用したアクティブラーニングに対応する設備も充実しており、教室は、開放感にあふれ、協働型、横断型の学習に適したものとなる。

生徒たちの真剣なまなざしと楽しそうな笑顔にあふれた新しい学舎の完成は、間もなくである。

東大会では予想以上の苦難があった。それでも勝ち抜くことができた3種目で、全国の頂点を目指し、選手たちは熱い戦いを見せてくれた。

結果は、3種目ともに予選敗退に終わったが、選手たちは精一杯戦い抜いた。この1年間、インターハイの舞台で戦うことを想定して様々な準備を行ってきた。しかし、今シーズンは怪我が多く、県大会や関

内へ還元していくシステムを構築することが必要である。さらに言えば、滑に進めていくためには、次の3つのステップを段階的に踏んでいく必要があると考える。第一に、IR担当者が必要

インターハイに出場

3種目で頂点目指し大健闘

陸上競技部は、7月27日から和歌山県で開催された全国高等学校総合体育大会に出場を果たした。本校からは、男子110mハードルの河越巨陽君、男子走幅跳の平流成君、女子4×100mリレーの瀬川葵さん

陸上競技部は、7月27日から和歌山県で開催された全国高等学校総合体育大会に出場を果たした。本校からは、男子110mハードルの河越巨陽君、男子走幅跳の平流成君、女子4×100mリレーの瀬川葵さん

短期大学では、地域貢献を目的に、これまでもさいたま市教育委員会から委託を受けた公開講座の開催や教育コラボレーション協定の締結により、さいたま市

が行う学校栄養職員や栄養教諭の研修会や土曜チャレンジスタールの支援等を実施してきた。

本年度においては、これらの取組みに加えて埼玉県をはじめとした自治体や市民、経済産業界等との協定を締結し、地域連携の充実を図っている。

本年度は、本学後期授業科目の「こども理解」を開放している。

この他、「学生の実践的な学びに関すること」や「研究、開発に関すること」、「社会貢献事業に関すること」、「当面する課題に能動的に取り組む教育に関すること」等を包括協定の共通事項とし、昨年度設置した「おそらの部屋」(模擬保育室)の開室に合わせて、あおぞらウィンクルム保育園との協定を締結し、同園に活用している。また、味彩コンテストや文部科学省の委託事業である「認定食育士」のプロジェクト等と、関連で東京ガス(株)埼玉支社と、キャリア教育や農業体験等で鈴木伝一氏とも同様の協定を結んでいる。

論説



大野誠理事長の「教養のこころ」は、「教養と努力であり、和の知恵である。それは、自分の欠点を知ることからはじまる。」と訓えている。訓えの中で、「教養」と「情報」は相通するものと捉えられている。本学の目指すIRの推進や、その先にある大学改革の本質は、この訓えに言い尽くされていると確信している。

一人、専任室員一人及び専門室員一人の小さな組織であるが、法人本部や情報セキュリティポリシー委員会などと連動し活動をはじめている。IR (Institutional Research) とは、大学の内外に存在するデータを集約・分析し、得た結果を基に大学の経営の改善や教育改革、学生支援の充実強化に貢献しようとするものであり、大学改革の一環として学長のガバナンス強化が求められている今日、その必要性が高まってき

ている。本学が目指すIRも、財務状況、学修成果や授業評価などの教育活動成果、入学試験・就職支援などに関わる内部評価など、経営基盤の安定強化や教育の質保証に関わるデータを抽出しク

ROS集計するなど分析することにより、例えば、志願者増につながる要因分析結果を基に募集活動戦略を練る、休・退学や成績の要因分析結果を学生との面談に活用しリスク回避を図る、など限り

なデータベースにアクセスできる環境を作ること。第二に、学内の担当部署で個別に管理されているデータベースの統合を図ること。第三に、集積されたデータや分析結果を効率的・効果的に学

内には還元していくシステムを構築することが必要である。さらに言えば、滑に進めていくためには、次の3つのステップを段階的に踏んでいく必要があると考える。第一に、IR担当者が必要

短期大学では、地域貢献を目的に、これまでもさいたま市教育委員会から委託を受けた公開講座の開催や教育コラボレーション協定の締結により、さいたま市

本年度においては、これらの取組みに加えて埼玉県をはじめとした自治体や市民、経済産業界等との協定を締結し、地域連携の充実を図っている。

本年度は、本学後期授業科目の「こども理解」を開放している。

IRの推進に向けて

本学における大学改革の本質を考える

大野誠理事長の「教養のこころ」は、「教養と努力であり、和の知恵である。それは、自分の欠点を知ることからはじまる。」と訓えている。訓えの中で、「教養」と「情報」は相通するものと捉えられている。本学の目指すIRの推進や、その先にある大学改革の本質は、この訓えに言い尽くされていると確信している。

一人、専任室員一人及び専門室員一人の小さな組織であるが、法人本部や情報セキュリティポリシー委員会などと連動し活動をはじめている。IR (Institutional Research) とは、大学の内外に存在するデータを集約・分析し、得た結果を基に大学の経営の改善や教育改革、学生支援の充実強化に貢献しようとするものであり、大学改革の一環として学長のガバナンス強化が求められている今日、その必要性が高まってき

ている。本学が目指すIRも、財務状況、学修成果や授業評価などの教育活動成果、入学試験・就職支援などに関わる内部評価など、経営基盤の安定強化や教育の質保証に関わるデータを抽出しク

なデータベースにアクセスできる環境を作ること。第二に、学内の担当部署で個別に管理されているデータベースの統合を図ること。第三に、集積されたデータや分析結果を効率的・効果的に学

内には還元していくシステムを構築することが必要である。さらに言えば、滑に進めていくためには、次の3つのステップを段階的に踏んでいく必要があると考える。第一に、IR担当者が必要

短期大学では、地域貢献を目的に、これまでもさいたま市教育委員会から委託を受けた公開講座の開催や教育コラボレーション協定の締結により、さいたま市

本年度においては、これらの取組みに加えて埼玉県をはじめとした自治体や市民、経済産業界等との協定を締結し、地域連携の充実を図っている。

本年度は、本学後期授業科目の「こども理解」を開放している。

この他、「学生の実践的な学びに関すること」や「研究、開発に関すること」、「社会貢献事業に関すること」、「当面する課題に能動的に取り組む教育に関すること」等を包括協定の共通事項とし、昨年度設置した「おそらの部屋」(模擬保育室)の開室に合わせて、あおぞらウィンクルム保育園との協定を締結し、同園に活用している。また、味彩コンテストや文部科学省の委託事業である「認定食育士」のプロジェクト等と、関連で東京ガス(株)埼玉支社と、キャリア教育や農業体験等で鈴木伝一氏とも同様の協定を結んでいる。

埼玉の味・いろどり亭(学生食堂)

「美味しかったよ」の言葉のために



3号館学生食堂「いろどり亭」では、健康栄養学科の指導で学生の健康維持を目的に、安全で栄養を満たし、嗜好に合った食事を提供している。また、単に食事をする場にとどまらず、学食を通して、地産地消、正しい食事マナーや礼儀正しさを、感謝の気持ちなど、栄養士、調理師養成教育における食育普及啓発活動の実践の場として、その役割を果たすことを念頭に、毎

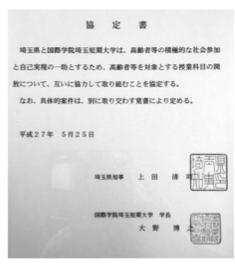
日、営業している。献立作成に当たっては、「日本人の食事摂取基準2015」を参考に給与栄養目標量を定めている。基準

を基に利用者の嗜好を考慮することや、季節の地産物を取り入れる等、美味しい食事を楽しんでいただくと同時に、「食」を介した地域の健康づくりに貢献できるように努めている。また、本年度からは、栄養に関する情報提供も行って

る。その内容は、食事の栄養価、成人が昼食に必要なエネルギー、たんぱく質、脂質、ビタミンB1、ビタミンB2、カルシウム、食塩の量の充足率グラフ、使用食品を3つの食品群に分けて、視覚的に栄養バランスが整っているかが確認できるようにしている。

敦照

かつて、「男は黙って……」というテレビCMがよく流れていた。その当時は、口数少なく黙々と仕事に打ち込んでいた時代と記憶している。その後、社会は大きく変化し、大学の授業においてもアクティブラーニングを取り入れ、プレゼンテーション能力等を身に付けることが教育の大きな目標の一つと思われるようになってきている。小生の学生時代はこの様な授業もなく、のどかな時代であった。▼さて、本学の状況であるが、平成十四年度から必修科目として、アクティブラーニング(本学においては、テュートリアル教育と称している)を取り入れた授業を実施している。この授業では、身近な出来事から問題を発見し、討論を通じて解決策を検討していくもので、プレゼンテーション能力、論理的思考力を養う等多くの成果をあげている。▼ところで、アクティブラーニングの導入授業では、講義で得た抽象的な知識・概念を更に深め、実際に活用できる確かな知識として身に付けることである。単にプレゼンテーション能力等の技術を獲得することが主たる目的ではないことを常に理解しておくことが必要である。



協定書
埼玉県と国際学院埼玉短期大学は、高齢者等の積極的な社会参加と自己実現の一助とするため、高齢者を対象とする授業科目の開発について、互に協力して取り組むことを協定する。
なお、具体的な内容は、別に取り交わす覚書により定める。
平成27年 5月25日
埼玉県知事 上田 清
国際学院埼玉短期大学 学長 大野 誠

知事と大学開放協定締結
5月25日に締結した埼玉県知事との協定は、「大学の開放授業講座」(リカレント教育)に関するもので、進展する高齢社会における県民生活の充実や社会参加の機会を提供するもの。活動的で意欲あるシニア層に

短期大学においては、今後とも確かな知識を身に付けた有為な専門職業人を社会に輩出し続けていきたいものだと考えている。

小山有一朗
法人本部総務部参事
大学改革推進室長
IR推進室長

研修先やホームステイで異文化を体験

本年度の海外研修は、オーストラリア研修が6月4日～11日、カナダ研修が6月4日～18日の日程で、教育提携しているシドニー大学、マッコーリー大学及びバンクーバーアイランド大学の協力のもとに実施した。参加した学生たちは、それぞれの研修プログラムで主体的に学び、大きな学修成果を獲得した。

オーストラリア研修

日本の保育との違い実感

オーストラリア研修実行委員長

幼児保育学科2年B組 飯塚 彩華

オーストラリア研修で、マッコーリー大学で受けた保育の講義では、自己の歴史を学ぶとともに、世界遺産であるオペラハウスを見学、ホームステイ、幼稚園視察などを体験しました。特に幼稚園視察では現地の子ども達と関わり、日本との保育の違いを知りました。

研修中最も必要性を感じたのは英語です。特に必要性を感じたのは、ホームステイです。ホームステイは、家族につき学生は2～3人で行いました。ホームステイ先でのホストファミリーとの会話の中で、私たちの英語が伝わらなかった



り、わからない英語があったりと多々ありました。そのときに、身振り手振りを交えて会話したり、電子辞書を使い日本語を英語に訳してホストファミリーの方々と会話をしたりしました。

カナダ研修

英語力の必要性を痛感

カナダ研修実行委員長

幼児保育学科2年B組 南 綾香

カナダ研修は6月4日から18日まで、幼児保育学科15名、健康栄養学科1名、国際学院高校通信制課程1名で実施されました。研修では、多彩なアクティビティやバンクーバー・アイランド大学(VIU)における授業、ホームステイなどたくさんの経験を通し、充実した2週間を過ごすことができました。



研修中、英語の必要性を実感しました。特に英語が必要だと感じたときは、ホームステイファミリーと会話するときでした。国際学

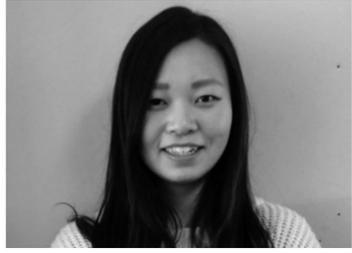
海外研修

学内研修 神奈川県鎌倉・江ノ島

日本文化と歴史に触れる

国内研修実行委員長

幼児保育学科2年C組 正木 郁巳



本年度の国内研修は、幼児保育学科・健康栄養学科の93名で6月5日・6日に神奈川県鎌倉・江ノ島で実施されました。当日は心配していた天候にも恵まれ、どの班も予定通りに研修を進めていたように感じました。

日本文化と国際理解の授

国内研修

業が始まった当初は、国内研修生全員が同じ目的に進むことができていませんでした。しかし、授業や点呼練習を重ねるにつれ、全員が目的をしっかりと持って授業に臨むことができました。また、幼児保育学科・健康栄養学科の学科を超え

た取り組みによって授業への理解を深めることができました。研修当日、幼児保育学科では子どもへの配慮や工夫を見つけたり、健康栄養学科では郷土料理や食材について学んだり歴史に触れたりとそれぞれの目的を忘れず、班員で話し合いながら研修を進めていきました。

事後学習では、実際に学んだことや、調べたことを限られた時間の中でパワーポイントにまとめ、発表に向けて原稿の作成を行いました。発表を聞いて、自分たちでは気づけなかった部分を感じている班も多く見られ、同じ研修先でも人それぞれ感じることが様々だと思ふとともに、自分たちの新たな知識になりました。

今回の国内研修では、学びを深めていく中で他者理解や自己理解ができ、仲間の大切さに気づき全員が大きな達成感を味わうことができました。研修を通して学んだことをこれからの生活に活かしていきたいです。



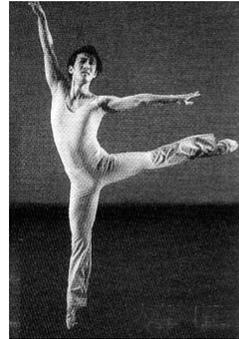
明るい雰囲気のある学生支援センター

学生支援センターを開設

今後、入学前から卒業後に至るまで修学上の諸課題や学生生活及び就職活動など個々の学生に係る課題を教職員が共有し支援に当たります。また、キャリア形成や就職支援に関連する研修の実施など、きめ細かな支援も推進する。プライバシーに配慮した相談室も用意されており、学生支援センターの名にふさわしい広範で具体的な学生支援サービスを展開して行くこととなる。

学院の歴史と伝統を継承

12月9日 学院創立記念行事開く



NBAバレエ団

学院長と学長が式辞

ソニックシティ 記念式とバレエ公演

ある大野誠理事長・学院長の式辞と短期大学・中学校の式辞、校長から、そして代表学生生演が計画されている。

どの学院関係者が参加して大宮ソニックシティ大ホールで「国際学院創立記念式・公演会」として行われる。

第2部は、ユニークな才能と人材が集う国際色豊かなバレエ・カンパニーである特定非営利活動法人NBAバレエ団によるバレエ公演で、今回の公演は「Art, The Love (ア・リトル・ラブ)」と「Great Galloping Gotschalk (ガチョーク賛歌)」の2公演。公演に先立ち、バレエの歴史やマイムの説明、作品解説も行われ、真の芸術に触れる機会を通じて本学院の学生生徒にとって有益となる記念公演が計画されている。

3つの担当がワンフロアーに

学生支援を充実・強化

本年8月26日。この日、学内は朝から移転作業に追われていた。1階事務室のフロアーを中心に、①ワンフロアーを中心に、②教職協働による、③教職協働による、④教職協働による、⑤教職協働による、⑥教職協働による、⑦教職協働による、⑧教職協働による、⑨教職協働による、⑩教職協働による、⑪教職協働による、⑫教職協働による、⑬教職協働による、⑭教職協働による、⑮教職協働による、⑯教職協働による、⑰教職協働による、⑱教職協働による、⑲教職協働による、⑳教職協働による、㉑教職協働による、㉒教職協働による、㉓教職協働による、㉔教職協働による、㉕教職協働による、㉖教職協働による、㉗教職協働による、㉘教職協働による、㉙教職協働による、㉚教職協働による、㉛教職協働による、㉜教職協働による、㉝教職協働による、㉞教職協働による、㉟教職協働による、㊱教職協働による、㊲教職協働による、㊳教職協働による、㊴教職協働による、㊵教職協働による、㊶教職協働による、㊷教職協働による、㊸教職協働による、㊹教職協働による、㊺教職協働による、㊻教職協働による、㊼教職協働による、㊽教職協働による、㊾教職協働による、㊿教職協働による、

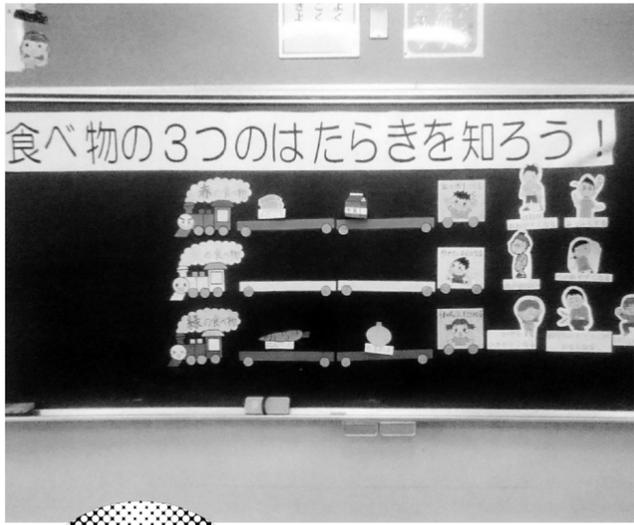
新たな学生支援センターは、開設直後から学生たちの声が飛び交い、データ検索や求人票ファイルを広げ、じっくり企業情報を探る学生、相談員から面接指導を受ける学生などで賑わっている。時折、卒業生たちが訪ねてきては、「明るい雰囲気がいいですね」と母校の新発見スポットにもなっている。

今後、入学前から卒業後に至るまで修学上の諸課題や学生生活及び就職活動など個々の学生に係る課題を教職員が共有し支援に当たります。また、キャリア形成や就職支援に関連する研修の実施など、きめ細かな支援も推進する。プライバシーに配慮した相談室も用意されており、学生支援センターの名にふさわしい広範で具体的な学生支援サービスを展開して行くこととなる。

母校で栄養教諭の実習

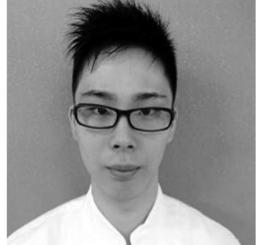
健康栄養学科 栄養士専攻2年B組
長澤優理花

私は9月14日から一週間、母校である川島町立出丸小学校で栄養教諭の教育実習を行いました。この実習を通して様々な体験をさせたいと、大変多くのことを学ぶことができました。この実習では校長先生



の特別なご配慮もあり、実習の一週間前から出丸小学校でお手伝いをさせていただきました。このことにより、児童ともすぐに打ち解けることができ、児童の笑顔が私の力となり、毎日充実した日々を送ることができました。また様々な先生方の授業を見学させていただきました。授業の進め方や授業内での児童との接し方などが分かり、とても勉強になりました。

校外実習を振り返って
3つの厨房で社会を学ぶ
健康栄養学科 調理師専攻2年C組
山下 利樹



私は平成27年2月3日から11日間、東京都港区にある「第一ホテル東京」の宴会調理、フレンチレストラン「アンシャンテ」、イタリアンレストラン「ラ・パランツァ」の3つの厨房で実習をさせて頂きました。

学びました。校外実習で学びえたことを忘れずこれからも努力していきたいです。施設実習を経験して「人の役に立ちたい」意欲増す
幼児保育学科2年C組
手塚麻有子



私は、施設実習を平成27年3月16日から3月31日にかけて行いました。実習当初は、決められた一日の活動を利用者が行い、それを実習生が体験するとい

校外実習を通して感じたこと 知識や技術の未熟さ痛感

健康栄養学科 栄養士専攻2年B組
伊東 将汰

私は今回、事業所内の社員食堂で実習を行わせていただきました。実習では、包丁を使わせてもらうことが多く、1回に20kg以上の玉ねぎをスライスすることもありました。その中で食材の切り方、衛生的な取



り扱い方について学びました。衛生管理は食中毒防止の為に最も大切なことで、その重要性を改めて感じました。食堂の営業中では盛り付けの仕方から提供までの一連の流れを教わることができました。また朝の検品作業と棚卸し作業、性別、年齢などさまざまな人がいる中で的確な指示をするために、調理・栄養に関する知識・技術がなければならぬと改めて学ぶことができました。実習を終えて、自分には栄養士として

教育現場で未来の自分確かめる

幼稚園実習を経験して
楽しみながら興味引き出す
幼児保育学科2年D組
落合 七海



の知識や技術においてまだまだ足りていないと感じることが多くありました。今回見つけた課題を克服し、

保育実習を経験して
失敗から改善策を学ぶ
幼児保育学科2年B組
瓜生香菜子



保育者自身が楽しい表情で取り組まなければ、子どもたちも興味を持つことはできません。教材研究が不十分で予測しなかった事態になり、戸惑うこともありましたが、そのような中でも、子どもたちから、「またやりたい」という言葉を聞くことができて、とても嬉しかったです。反省会では、先生方から多くのご助言やご指導を頂き、自分自身では気づくことができない課題を見つけることができました。

私は、保育園での実習を経験して多くのことを学ぶことができました。私が実習でお世話になった保育園は、礼儀や思いやりの心、感謝の心をきちんと教えてくれました。子どもに声をかけたり、何かを教えたりすると、お礼の言葉が返ってくる素敵な保育園でした。そのような子どもたちの姿を見て、私も挨拶や礼儀・マナーを常に心がけることができました。

オープンキャンパスの全日程終了

好評だった体験授業 「保育学」「調理実習」



プロの指導に真剣な表情の参加者

短期大学の授業を体験してみよう!!

今年、予定していたオープンキャンパスの全日程が終了した。4月25日、5月23日、6月27日、7月11日、18日、8月1日・23日、9月19日、10月3日の合計9回実施し、延べ1400名の高校生・社会人・保護

者が来校した。今年、予定していたオープンキャンパスの全日程が終了した。4月25日、5月23日、6月27日、7月11日、18日、8月1日・23日、9月19日、10月3日の合計9回実施し、延べ1400名の高校生・社会人・保護者が来校した。本学や各学科の紹介をはじめ、「見て、触れて、未

来の自分を感じよう！」をキャッチコピーに各学科における授業内容を実際に体験できるコーナー、教員・在学生による相談コーナーやキャンパスツアーなどをプログラムに取り入れた。幼児保育学科では「体験授業テーマ」を設定し、1日のオープンキャンパスで3つの授業を体験できるように配慮した。例えば、「子どもとともに楽しむ活動」という体験授業のテーマでは「保育学」、「音楽表現」、「身体表現」の3つの体験授業を用意し、保育学では「切り紙」、音楽表現では「夏の歌の歌唱」、身体表現では「リズムダン

ス」を参加者が体験した。参加した高校生・社会人・保護者は童心に返り、自由な発想で一枚の折り紙から愛らしい動物や面白いデザインの仕事、腹式呼吸を基本とする発声練習の初夏の歌を唱歌したり、初対面同士で手を繋ぎ、音楽に合わせて楽しそうにダンスをしていた。また、昨年度からの取り組みとして、ピアノを弾くという対する不安感を解消するために設けた「ピアノ相談コーナー」や学生が先生役を演じ、キャンパスツアーに参加している来場者が園児役を体感できる「模擬保育コーナー」は、来場者から頂戴したアンケートの集計結果で高い評価を得ることができた。

健康栄養学科では2つの専攻毎に実習の体験を中心とした体験授業が組まれた。食物栄養専攻ではアレルギー体質の人も美味しく食べるのできるおやつを作ったり、大量調理の現場では、どのような調理がおこなわれているかを学んだり、日常の食生活においてバランスの良い食事がとれているかをパソコンで確認してみた。調理製菓専攻では開催日ごとに日本料理・西洋料理・中国料理・製菓といった多様な体験実習を組んだ。その中でも、日本料理や製菓の体験授業では、外部講師を招いてプロ

フェッショナルによる授業を体験することで、参加者の興味津々な表情が見受けられた。開催中に各学科の教員による個別相談や在学生による相談コーナー、入試部職員による相談コーナーを設けて、授業内容や資格取得、学生生活や各種実習、入学試験や入学手続きなどの様々な質疑応答に対応することで高校生や保護者、更には社会人といった幅広い参加者に安心して頂ける様に努める姿勢に対し、来場者から頂戴したアンケートで「教職員と学生が丸ごとついて親身に接してくれる明るい短期大学」、「親近感が湧いて、また来たい」といったコメントから、多くの参加者から好評を得ることができた。



フランス料理講習会

本年度のフランス料理講習会は講師に、ダニエル・マルタン先生をお招きし、本学の健康栄養学科調理製菓専攻の学生35名と国際学院高等学校の生徒122名が参加し、9月4日に国際学院中学校高等学校で実施された。マルタン先生は、ル・コルドンブルーパリ東

マルタン先生が日本語で指導

深い専門的知識、料理への愛情



京校初代校長を務めるなど、様々な経歴の持ち主であり、フランス料理界でもトップクラスの調理技術の持ち主である。また、マルタン先生は日本語が堪能であり、通訳なしで実習をしていただいた。本年度の講習会の内容は、「小海老のサラダ サフラン風味のジャガイモ添え」、「サーモンのパルマントイェ風 イクラとハー

ブ添え」、「タルト・オ・ポム」の3品であった。デモンストレーションでは、1つの皿の中に、基本的な技術と斬新な盛り付けのアイデアなどが盛り込まれていて、そのひとつひとつの調理技術や食材に対する専門的な知識、料理に込める愛情に何度も驚かされた。頂点を極めた人格者の料理を間近に見ることは、これから料理を学んでいく学生・生徒に対して、調理する楽しさや、料理の無限の可能性を感じさせてくれるものであった。今回のフランス料理講習会で学んだことは、今後の学校生活での励みになるとともに将来の糧となる特別な経験であった。

就職に向け学校と家庭連携

2年生保護者対象キャリア説明会

担任との懇談会も開催

本学は例年高い進路実績を上げています。平成26年度も専門職への就職率は、短期大学幼児保育学科99%、



健康栄養学科96%と高い水準を誇っている。しかし、この高い就職率も、決して一朝一夕であげられるものではなく、創立50年を超える学院の伝統に基づくものや、卒業生たちによる社会での活躍のお蔭であると考えます。本学では、就職活動における学校と家庭との共通理解並びに連携を深め、学生のキャリア形成の向上を更に図ることを目的に、平成25年度より、保

護者対象のキャリア説明会を開催している。本年度、健康栄養学科は6月20日(土)に、幼児保育学科は9月26日(土)に説明会を開催し、両学科とも多くの保護者が参加した。中には、両親で参加される方もあり、その関心の高さが伺えた。説明会は、学長および学科長挨拶、各学科の専門性、専門職の就職状況、本年度の求人状況等についての説明や、学生の就職活動に向けての取組方や家庭での支援について、各学科教員から講話や資料に基づき説明が行われた。

説明会終了後、会場を移して、健康栄養学科は栄養士・調理師専攻別に、幼児保育学科はクラスごとに、担任の教員を交えての懇談会が行われた。それぞれの懇談会では、「具体的な説明が参考になった。社会に出るための家庭での支援の重要性を改めて感じた」「他の学生さんの様子が分かって良かった」「就職活動においての家庭での支援が分かりやすく理解できた」など、就職についての親としての不安や疑問とともに、わが子の進路実現に対する声も寄せられた。なお、今後は各学科1年生の保護者を対象に、今後の就職活動に向けて、家庭におけるキャリアサポート等についての説明会を平成28年2月13日(土)に開催する予定となっている。

担任の教員を交えての懇談会が行われた。それぞれの懇談会では、「具体的な説明が参考になった。社会に出るための家庭での支援の重要性を改めて感じた」「他の学生さんの様子が分かって良かった」「就職活動においての家庭での支援が分かりやすく理解できた」など、就職についての親としての不安や疑問とともに、わが子の進路実現に対する声も寄せられた。なお、今後は各学科1年生の保護者を対象に、今後の就職活動に向けて、家庭におけるキャリアサポート等についての説明会を平成28年2月13日(土)に開催する予定となっている。

介護食士とは内閣総理大臣認定の資格で、公益社団法人・全国調理職業訓練協会が介護に携わる方たちの調理技術を向上させる目的で設けた認定資格制度であり、埼玉県内では本学が唯一の講習会実施施設である。これまでに91名の方が3級の認定を受け資格を取得している。今年で6年目の開講となる本講座は、全13回に渡り実施され、介護食士概論・医学的基礎知識・高齢者の心理・栄養学・食品学・食品衛生学・調理理論・調理実習の計8科目を合計72時間学ぶことにより、その分野の専門家を育成している。

受講生は、専業主婦の方から、実際の介護現場で働く介護福祉士や調理師、管理栄養士、また本学の健康栄養学科の学生など、様々な経歴の方が集まり、同じ目的意識を持ち有意義な講習となっており、埼玉県在住者のみでなく東京都、千葉県、栃木県、茨城県などからも多くの方が受講している。調理実習は毎回行われ、

調理の基本である野菜や肉、魚の切り方、だし汁の取り方から始まり、その後、専門性の高い咀嚼困難、嚥下障がい、食物を噛みにくい高齢者のための調理のコツなど、すぐに実践することが出来る内容で実施されている。3月に予定されている介護食士3級認定試験の全員合格を目指し今日も学んでいる。

「介護食士3級認定講習会」開講

県内で本学が唯一開講し、取得できる資格

平成17年度卒業生



社会福祉法人 宮原ハーマニー
ハーマニー保育園 園長 原田 未来

子どもや保護者、職員と共に喜び、互いに成長

私は現在さいたま市の保育園に勤めて10年目となります。今年度より園長という新たな立場で保育に携わっています。保育士として、園長として立場が異なるとそれぞれ大変さはありますが、短くなったとき、きっとその経験が生きてくると思っています。学びの日々を送っている今だからこそ、人生の土台となる根を地に深く伸ば

ら、保育をするということに常にと人と人が関わりながら生活していくことだからです。他の職業でも多かれ少なかれ誰かと関わると思っています。学生の時は煩わしく思うこともあるかもしれませんが、子どもが無数の可能性を「教えてくれる」存在です。そのことに感謝しながらこれからも保育を楽しみ、日々挑戦していきたいと思っています。



棘パニックを応援!

テーマは「みんなであつなごう5つの輪」

安全配慮しエアーチでお客様をお迎え!

平成27年11月7日(土)、8日(日)の両日、国際学院3大行事の一つである五峯祭が開催された。今年度のテーマである「みんなであつなごう5つの輪」には、誠実・研鑽・慈愛・信頼・和睦の5つの言葉からなる建学の精神、2020年に招致が決まったオリンピック・パラリンピックの応援、学生一人ひとりの力を小さくとも、みんなの力を合わせれば大きな力となるという思いが込められた。

笑顔で支えあつた五峯祭

学生五峯祭委員長 佐藤 茉林
幼児保育学科2年C組



セのち
し一た
レ二者
出演者
▲楽モ
レ出
▼五峯祭委
員



今年の五峯祭は、青空のもと良いスタートを切る事ができました。2日目は雨天でしたが、昨年の反省を活かし学生同士で安全確認ができるよう、巡回シートを新たに作成し、どのような状況にも対応できるようにしました。

五峯祭を開催!

五峯祭開会式のセレモニーは、大道具に力を入れ、毎日朝早くから作業・練習を重ね、見ていてワクワクする仕掛けがたっぷりでした。本学の建学の精神である、誠実、研鑽、慈愛、信頼、和睦を取り入れた作品は、完成度の高いものとなり、学院長先生からも喜びのお言葉をいただきました。

9月12日(土)・13日(日)の両日、第18回「五峯祭」が行われた。今年「Bit by Bit」のテーマのもと、正面玄関に世界各国の国旗を装飾し、本校初の2000人を超える来場者を迎えることになった。

今年度の最優秀賞には3年H組「K Tube」が選ばれ、昨年2位の雪辱を果たす結果となった。3年H組は、クラスTシャツコンテストでも最優秀賞、ポスター部門も最優秀賞を排出するなど3冠の栄誉となった。



部活動でも恒例の射撃体験や女子バレーボール部の招待試合が行われ、サッカー部はグラウンドコンディションの影響で急遽、マコトホールでの体験会となった。

太鼓公演、保護者会による体験コーナーやバザーも大好評であった。水彫刻の展示は美しく調理師専攻の模擬店は今年も大盛況のうち幕を閉じた。

伊奈町前
吹奏楽部や軽音楽同好会のライブ演奏も盛り上がりを見せた。

今年度のテーマの意味する通り、一人ひとりが力を合わせ作り上げた五峯祭だと思えます。そして天候が優れない中、たくさんのお客様が足を運んでくださり、多くの笑顔が溢れる五峯祭になりました。

私は、入学時から五峯祭実行委員長に憧れてきました。五峯祭委員となったことで、クラス活動だけでなく五峯祭全体に関わる事ができました。1年次は、アーチの立案・製作、2年次はセレモニーに出演し、忙しい中、私が委員長を務められたのも委員の仲間を支えがあったからです。

様々な経験を通して多くを得ることができました。五峯祭学生委員、そして多くの諸先生方のご指導・ご助言をいただき日々の学びを具現化出来た結果だと思えます。

第23回「味彩コンテスト」を開催



食材に県産の卵(彩卵)追加

学長賞は森さん(一般の部)、渡邊さん(高校の部)

平成27年7月11日に、第23回「味彩コンテスト」が国際学院埼玉短期大学で開催された。このコンテストは、主催が国際学院埼玉短期大学及び、同窓会「あすなろ会」「けやき会」、後援団体として、埼玉県、さいたま市を始め、他7団体と、協賛団体は今回から2企業が新たに参入し、14団体のご支援・協力を得て実施された。

本コンテストは、食生活の改善や地産地消を目的とした料理コンテストとして、平成5年から開催されておおり、今年は、相乗効果も考えて、オープンキャンパスと同日開催となった。また、本年度から、食材に埼玉県産の卵(彩卵)が追加された。

従って、課題は埼玉県産の鶏卵や野菜と黒豚(高校の部は国内産豚肉)を使用し、一般の部は「ごはん」にあう彩り主菜料理、高校の部は「素材の味と彩りをいかした高校生バランス弁当」とし、一般・高校生を対象に募集した。応募者総数は508名(一般の部277名、高校の部231名)で、昨年を上回る応募であった。

この中から、事前に第1次審査(レシピ審査)を経た一般の部18名、高校の部の部10名が、コンテスト当日の第2次審査(調理・試食審査)に臨んだ。

学内外の審査委員によって、40分間の調理審査後、出来上がった料理の試食審査が行われ、各賞が決定された。最優秀作品の学長賞は、森さん(一般の部)が、渡邊さん(高校の部)が、それぞれ受賞された。

健康栄養学科 食物栄養専攻1年A組 森 みどり

味彩コンテストの作品募集を知り、私は、いつも作っている料理でチャレンジしてみようと思いました。食材は使い慣れた見沼の野菜や、坂戸のルッコラと弓削田醤油のもろみを使い、このもろみは、特に肉と相性がよく、豚肉のしゃぶしゃぶ、肉野菜炒め、厚切り豚肉の網焼きなどいろいろな用途で使える発酵食品です。

この中から、事前に第1次審査(レシピ審査)を経た一般の部18名、高校の部の部10名が、コンテスト当日の第2次審査(調理・試食審査)に臨んだ。

学内外の審査委員によって、40分間の調理審査後、出来上がった料理の試食審査が行われ、各賞が決定された。最優秀作品の学長賞は、森さん(一般の部)が、渡邊さん(高校の部)が、それぞれ受賞された。

味彩コンテストの様子
は、7月16日付けの埼玉新聞記事にも掲載され、その意義や内容を広く埼玉県民の皆様で紹介して頂けた。

これからの身近にある食材で、栄養バランスの取れたスピード料理には井料理がよいと思いました。作品は「たっぷり野菜のもろみ豚丼」とネーミングしました。

第30回 幼児絵画展を開催

個性溢れる作品に15の賞贈呈

幼児絵画展は、本学の大学祭である「五峯祭」に合わせて11月7日(土)、8日(日)に盛會裏で開催された。幼児絵画展は、昭和61年に第1回を開催して以来、今年で30回を数え、今回は記念行事として過去の作品を振り返るコーナーを設ける等の取り組みを行った。本絵画展では、埼玉県内の幼稚園や保育所等に通っている3歳から5歳までの子どもを対象とし、幼児教育における表現活動への興味・関心を高め、県内幼児教育の振興に寄与することを目的として開催している展覧会である。本年度は、81園・所から764点の応募があった。

10月14日(水)に行われた審査会では、塗師祥一郎委員長を中心に、学外の先生方並びに学内の審査委員を合わせて13名の審査委員が、すべて

の作品を厳正に審査した。「ここがよし」(個性が溢れているか・心がこもっているか・画面いっぱい描かれているか・喜びにあふれているか・焦点がはっきりしているか)を観点として、とくに優れた作品には、学長賞、埼玉県知事賞、審査委員長賞をはじめとする15の賞の選出を行った。展覧会と同日に開催された表彰式には、多くの子ども達や保護者の皆様をお迎えすることができた。子ども達には慣れない雰囲気緊張した表情も見せたが、賞状を受け取り、保護者の方にも嬉しそうに笑顔を見せた。また、学生にとっても、多くの作品を観ることは、表現活動に興味をもち、個々の表現の違いにも気づくことができ、大きな学びの機会となった。

本年度も開催にあたり、



10月上旬から始まった準備・運営を通して助け合う力身につく
幼児絵画展学生委員長 中里 彩花

10月上旬から始まった準備から幼児絵画展当日までの期間、幼児保育学科の先生方に支えていただきながら学生委員会を中心として作業を進め、当日も協力して臨むことで滞りなく展覧

の作品を厳正に審査した。「ここがよし」(個性が溢れているか・心がこもっているか・画面いっぱい描かれているか・喜びにあふれているか・焦点がはっきりしているか)を観点として、とくに優れた作品には、学長賞、埼玉県知事賞、審査委員長賞をはじめとする15の賞の選出を行った。展覧会と同日に開催された表彰式には、多くの子ども達や保護者の皆様をお迎えすることができた。子ども達には慣れない雰囲気緊張した表情も見せたが、賞状を受け取り、保護者の方にも嬉しそうに笑顔を見せた。また、学生にとっても、多くの作品を観ることは、表現活動に興味をもち、個々の表現の違いにも気づくことができ、大きな学びの機会となった。

今回の幼児絵画展を通して、臨機応変に行動する力と協力し合う力が身についたように感じます。今回の経験で学んだことを、今後の学生生活にも活かしていきたいと思えます。

射撃部

全国高校女子射撃競技大会出場

目標のビームライフル女子団体入賞果たす

私たちが射撃部は、全国高等学校ライフル射撃競技大会に出場した。今年は、ビームライフルで男子2名、女子3名、エアライフルで男子1名、女子1名が出場した。女子は、目標としていた団体での全国大会出場も果たすことができた。

今大会は、広島県安芸太田町で7月28日、31日の日程で行われた。埼玉からは本校以外にも東北高校、西武文理高校の選手が出場した。本校は全国大会19年連続出場を果たしており、20年連続をめざし、日々練習に励んできた。全国大会へはその前に行われる予選を勝ち抜かなければ出場することができないが、今回は多くの選手が出場することができ、上位入賞が期待された。特にエアライフルで出場した3年生井上達貴選手は、関東大会等で上位入賞を果たし、賞を果たし着実に力をつけてきた。また、3年生関根留菜選手は団体出場も決まり、大会での上位入賞が期待されていた。大会中は非常に好調な出足の陸上部



ビームライフル女子団体で入賞

県新人大会で大活躍!

400mリレーで男子が初の県制覇



来年のインターハイに向け好調な出足の陸上部

結果は、予選敗退と厳しいものだったが、来年の岡山インターハイに向けて全国の頂点を目指す戦いは始まっている。

2016岡山インターハイの頂点を目指す新チーム

陸上競技部は、7月27日から和歌山県で開催された全国高等学校総合体育大会に3種目で出場を果たすことができた。部としては6年連続でのインターハイ出場となる。

クラブ活動報告

本年度も第2学年の海外研修・語学研修・国内研修がそれぞれ無事に終了した。海外研修は、本校の建学の精神及び教育方針を基に、異文化体験を通じて国際理解を深めるとともに規律正しい集団行動から協調性・実行力・責任感を養うことを目標とし、授業の一環として行われる。

異文化に触れ、日本文化再認識

海外研修・語学研修・国内研修

海外研修は、本校の建学の精神及び教育方針を基に、異文化体験を通じて国際理解を深めるとともに規律正しい集団行動から協調性・実行力・責任感を養うことを目標とし、授業の一環として行われる。

海外研究

世界異文化化学習会を開催

ペルー料理学習会も実施

6月22日(月)および24日(水)、平成27年度ユネスコスクールESDアシストプロジェクトとして世界異文化学習会・ペルー料理学習会を実施した。この事業は日本ユネスコ協会連盟より助成を受けて実施しており、第2学年「海外研究」の事前学習として行っている。22日に行われた世界異文化化学習会では、タイ・パラグアイ・ロシア・韓国・中国・コロンビア・インドネシア・インド・フランス出身の講師が来校し、中学生および第2学年計323名が参加した。各教室での個別講座では、各国の文化について学習したり、歌や踊り、伝統衣装、楽器などを体験することで各国の文化を学んだ。



恒例行事である夏季進学合宿が8月20日から8月23日の3泊4日の日程で実施された。場所は国立オリンピック記念青少年総合センターで、第3学年23名、第2学年12名、第1学年35名の合計70名が参加した。さらに、第1学年、第2学年は翌日の24日に、その学習成果を確かめるべく、校内で模擬試験に臨んだ。

高校夏季進学合宿

恒例行事である夏季進学合宿が8月20日から8月23日の3泊4日の日程で実施された。場所は国立オリンピック記念青少年総合センターで、第3学年23名、第2学年12名、第1学年35名の合計70名が参加した。さらに、第1学年、第2学年は翌日の24日に、その学習成果を確かめるべく、校内で模擬試験に臨んだ。

勉強は体力

朝から晩まで学習 上級生は成長を確信



今年も例年以上の成果

午後4コマ、夜は自習・確認テストと、朝から晩まで息つく暇もなく、学習に取り組む。初めに参加した1年生の生徒たちは、これまでの経験したことがない学習量に戸惑ったようであったが、学習にも体力が必要と感を得た。下級生がそんな先輩の姿を見る

とができるのもこの合宿の良いところである。さらに、今年の3月に卒業した先輩が激励に訪れてくれた。身近な先輩の話は生徒たちにとっては、大変良い刺激となった。このような毎年の積み重ねが、夏季合宿の良き伝統として受け継がれていくのであろう。

留学紹介

オーストラリア・ブラジルから留学生が来校



オーストラリア・ブラジルから留学生が来校

平成27年度受け入れ留学生として、オーストラリア人のダニエル・タイ君とブラジル人のアンドレッサ・ソアレックスさんが来校した。4月に来校したダニエル君は1年G組の一員として9月3日の帰国だったため残念ながら五峯祭には参加できなかった。一方、1年間の予定で9月に来校したアンドレッサさんは、現在1年H組の一員として学んでいる。まだ来日して間もないため、日本語でのやり取りに苦労している様子だが、クラスメイトに助けられつつ、日本での生活を楽しんでいる様子である。9月中旬には五峯祭が行われたが、文化祭の準備を手伝ったりすることで、一気に仲良くなったように伺える。

国際学院で国際交流

マレーシアの中学生16名来校



中学校高等学校では、本年度もユネスコスクールとして、国際交流をすすめてきた。まず、5月31日(日)6月6日(土)まで昨年度教育提携を結んだマレーシアの王立アラムシャア中等学校の生徒16名が来校した。来校初日には、ユネスコ部とも交流を深めることができた。また、本校生徒や保護者にも協力してもらい、1泊2日のホームステイも実施

食文化に親しみ体育祭にも参加

歓迎会でソーラン節披露

マレーシアの生徒達は日本の家庭の様子を体験した。一方、本校生徒の国外への派遣も積極的に行っている。7月には王立アラムシャア中等学校が主催するサイエンスキャンプに生徒1名が参加した。9月には台湾の国立水里高級商工職業学校に生徒5名が訪問した。この学校は、生徒50名が4月に本校を訪問した学校であり、調理師を育成するコースや日本語を学習するコースもあり、これからの交流の活発化が期待できる学校である。交流内容としては、本校生徒は、生徒代表挨拶を中国語で行ったり、ソーラン節を披露したりするなどした。ソーラン節は

この日のために準備してきたもので、歓迎会において、成果を十分に発揮することができた。その後も、調理

マレーシアの生徒達は日本の家庭の様子を体験した。一方、本校生徒の国外への派遣も積極的に行っている。7月には王立アラムシャア中等学校が主催するサイエンスキャンプに生徒1名が参加した。9月には台湾の国立水里高級商工職業学校に生徒5名が訪問した。この学校は、生徒50名が4月に本校を訪問した学校であり、調理師を育成するコースや日本語を学習するコースもあり、これからの交流の活発化が期待できる学校である。交流内容としては、本校生徒は、生徒代表挨拶を中国語で行ったり、ソーラン節を披露したりするなどした。ソーラン節は



中学3年生、マレーシア・シンガポール海外研修実施

提携校に宿泊し、交流

中学校3年生は、去る11月2日から6日までの5日間、マレーシア・シンガポールにおいて海外研修を行った。マレーシアでは、本校の提携校である王立アラムシャア中等学校に宿泊し、現地の生徒たちと交流を図った。1日目、学校に到着したのは夜だったが、ゆったりとした

とした敷地の中にある落ち着いた雰囲気のある学校であった。2日目は歓迎会やクアラルンプール市内見学があった。そこで強く感じたのは、アラムシャア中等学校の生徒たちの誠実で心のこもった対応だ。また、早朝のソーランの放送から始まるイスラム教の学校での生活は、異文化交流の点で生徒たちにとってかけがえのない経験となった。3日目は午前中授業に参加し、送別会の後、バスで世界遺産であるマラッカを経由して、シンガポールに移動した。4日目は午前中にインド人街やアラブ人街を見学し、シンガポールが様々な文化の中継地であることを生徒たちも実感した様子であった。そして現在では世

界屈指の金融センターとして発展を続ける活力を感じた。午後は現地の大学生とともに班別行動をしながら交流を図った。行き先も生徒が決めるというので、かなり自由度が高い研修内容だったが、生徒同士でしっかり話し合い、無事に終えることができた。今回の研修で生徒たちは、交流した人々の温かい心、学ぶ姿勢、あらためて痛感した外国語の必要性など多くのことを学ぶことができた。一方、これまでに本校を訪れた留学生との交流経験を生かして、現地の人々と英語で交流していた中学校3年生の成長を実感した。この経験がさらに今後の学習や学校生活に必ず生きることに強く感じている。

名前を聞くと科学に特化した難しいものに思われませんが、実際の内容は多分野にわたる充実した楽しいキャンプでした。日本からは6名、インドから6名、そしてアラムシャア中等学校から11名が参加しました。1日目は、高校で授業を受けた。Pa'diedという情報を共有できるサービスを使って環境問題について考えた。マレーシアの伝統工芸品であるパティックを体験したりしました。2日目、3日目はマレーシア大学で食品化学の講義を受けたり実験をしたりしました。一番印象に残っている実験は、ローゼルト

という植物を利用してつくったお茶やジュースに、どれだけのビタミンCが含まれているかを測定するものでした。3日目の午後からは村へ移動して、ホームステイをしました。夜にはハリライヤという祝日を地元の方と一緒に祝いしました。みんなで歌ったり踊ったりして盛り上がりました。次の日は朝からココヤシを使ったゲームをしたり、みんなで自転車に乗って村を回ったりしました。そして夜は首都であるクアラルンプールを見学しました。数日の間にみんなと仲良くなり、お互いの文化などについて話をしました。このキャンプで多くの人や文化に触れることが出来、また、それが日本の文化について改めて考えるきっかけともなりました。

マレーシアの次世代科学者キャンプに参加

講義や実験、地元との交流と多彩

通信課程(高校3年) 柴山 りな



今回の研修で生徒たちは、交流した人々の温かい心、学ぶ姿勢、あらためて痛感した外国語の必要性など多くのことを学ぶことができた。一方、これまでに本校を訪れた留学生との交流経験を生かして、現地の人々と英語で交流していた中学校3年生の成長を実感した。この経験がさらに今後の学習や学校生活に必ず生きることに強く感じている。

中学校第2学年が修学旅行

広島・京都・奈良を訪問

去る9月29日から10月2日の4日間の日程で、中高一貫部2期生14名による広島・京都・奈良への修学旅行が行われた。これはユネスコスクールに通う生徒としての自覚を持って世界遺産に関する学習をすすめるとともに、日本の歴史につ

いて深く知ることや国際感覚を高めることを目的としている。広島では原爆ドームや平和記念資料館などを訪れた。現代的な建物に囲まれた平和記念公園では、原爆ドームだけが唯一当時のままの姿をとどめており、異質な空間にいる感じがした。原爆の像の子では、「戦争のない、平和な世界が築かれますように」と願いを込めて折った千羽鶴を納めた。京都・奈良では金閣寺、銀閣寺、京都大学、北野天満宮、二条城、三十三間堂、興福寺と東大寺など、全部で十か所以上の名所を訪れ

た。本校中学生は、事前学習で各名所を調べ、レポートを作成していたが、「百聞は一見に如かず」と言うように、自分の目で実物を見ることで、世界遺産や国宝の魅力を感じ、感動がより大きくなった。特に、煌びやかな金閣寺と哀愁漂う銀閣寺を実際に訪れることで、言葉では表せない銀閣寺「わび、さび」の雰囲気を感じることができた。今回、本校の第2期生は、「礼をつくし、場を清め、時を守る」を実践し、たいへん立派な態度で臨めた。修学旅行で人間の成長を遂げた第2期生の今後に期待したい。



以降の体験も含めて総じて集団行動や異世代間の交流の楽しさや難しさ、豊かな自然の恩恵を改めて認識し、この中で自分はこのような役割を果たすべきか、自分の行動が周囲にどのような影響を与えるかを考えるきっかけになったのではないかと思います。みな非常に晴れやかな表情を見せていた宿泊研修となりました。

理科実験や劇など多彩な催し

9月12・13日 約2千2百名の来場者

去る9月12日(土)・13日(日)の、さわやかな秋晴れの佳き日に、中学校高等学校の第18回「五峯祭」が挙行された。中学校では3年目を迎える今年度の五峯祭は、約2200名の来場者を迎え、大盛況のままに終わることができた。

今年度のテーマである「Bit by Bit」は、校長先生のアッセンブリでの講話が元となり、生徒の間で合言葉となったものが採用された。テーマに込められた「いかなる困難な状況でも、わずかにでも前進しよう」というメッセージは、本催事での生徒一人ひとりの原動力になっていた。中学校第1学年では、理科実験を元にしたサイエンスパークが催された。来客用に用意された、キャンパスなどの工作物は、開催中に品切れになるなど、たくさんの方の来場者をお招きすることができた。

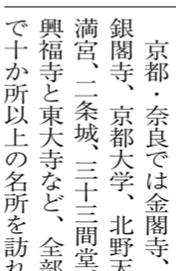
中学校五峯祭



中学校第2学年では、オリジナル脚本によるシンデレラの劇が披露された。夏季休業中にも準備を重ね、衣装の縫製まで自分たちで行うなど、本格的な演劇をクラス全員でまとめ上げた。優秀賞を受賞し、観客数も220名あまりを数え、完成度も高く、多くの

来場者を笑顔にする催しであった。中学校第3学年では、プラネタリウムの展示を教室にて実施する傍ら、高等学校調理科と共同で、商品開発したデザート販売した。展示は、理科の授業の学習成果を発揮したものを完成させ、デザートは用意した200食を完売するなど、中学校最上級学年としての成果を上げることができた。

来年度は、高校進学生の活躍も期待される。「Bit by Bit」のメッセージを胸に、良き伝統を引き継ぎ、2016年度の五峯祭をさらに磨き上げたものとすることを、生徒諸君に期待している。



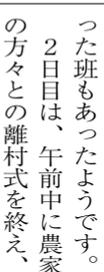
9月14日(月)から16日(水)まで、長野県飯田市において農山村体験・宿泊研修が行われました。豊かな自然の中で自然環境への理解を深め、集団行動の中で規律を学び、また自分や友人の新たな一面を発見する良

飯田市で宿泊研修

農山村体験で地元農家と交流

い機会となりました。1日目には2・5人で班を組み、農家で宿泊を含む体験活動を行いました。ある班は稲刈りの後にバーベキューをし、また他の班は雄大な景色を臨み、あるいは名物の五平餅を農家の方々

と一緒を作るなどして交流を深めました。中には1歳を迎える子どもがおり、一緒に誕生日を祝った班もあつたようです。2日目は、午前中に農家の方々の離村式を終え、昼食に信州そばを手作りました。作りたてのそばは、とても期待しましたが、できあがったそばとどう違うのかと不思議な感じがしました。



以降の体験も含めて総じて集団行動や異世代間の交流の楽しさや難しさ、豊かな自然の恩恵を改めて認識し、この中で自分はこのような役割を果たすべきか、自分の行動が周囲にどのような影響を与えるかを考えるきっかけになったのではないかと思います。みな非常に晴れやかな表情を見せていた宿泊研修となりました。

同窓会臨時総会を開催

新会長に新野忠史氏(けやき会)が就任

去る、6月21日(日)、3号館において平成27年度国際学院同窓会臨時総会が開催された。今年度は、役員改選の年度に当たり、日曜日にもかかわらず、同窓会発足時からこれまで同窓会の充実・発展に尽力をいただいた大野誠同窓会名誉会長、大野博之同窓会顧問をはじめとし



議長審議の開始に役員改選が行われ、慎重審議の結果、これまで、けやき会副会長の新野忠史氏が満場一致で同窓会会長に

選出された。また、中村治美副会長(つくし会会長)、大野智子副会長(あすなろ会会長)が留任となり、新たに副会長として、濱野三郎氏(けやき会会長)が選出された。

新会長に選出された新野氏からは、「同窓会活動を通して母校である国際学院の充実、発展のため、役員と共に尽力したい」との挨拶があり、平成27年度の同窓会が新役員のもと力強く歩み出すことができた総会となった。

オリエンテーション研修報告

「建学の精神」教育方針 身につける

春の暖かい陽気の中、平成27年4月2日から6日、11日にわたり本学にて学内研修、4月9日から10日にわたり軽井沢プリンスホテルにて宿泊研修が行われた。

学内研修では、2年生のオリエンテーション委員会が中心となり、準備が進められた。2年生オリエンテーション委員は新入生を温

かく迎えるため、自ら新入生だった時のことを思い出しながら計画を立案した。2年生の思いが実り、笑顔のなかにも慣れない環境で若干不安な様子が見受けられた1年生も学内研修を通して各クラスから明るい声とどきどきの笑顔が見られるようになった。

宿泊研修では、1年生オリエンテーション委員が中心となり、入学後間もない時期から組織作りや準備を進め、クラスをまとめる役割を担った。委員を中心に、良い緊張感を持って、積極的な態度で研修に参加し、宿泊研修を通して、本学学生としての姿勢を学ぶとともに、様々なプログラムを通してクラス内での交流を深めることができた様子であった。

学科別の体験学習では、幼児保育学科は軽井沢絵本の森美術館及びエルツおもちゃ博物館の見学と研修を、健康栄養学科はそば打ち体験を行い、自らの専門性を高める良い機会となった。

本年度の体育大会は、「人づくりを科学する」輝け青春・弾ける笑顔」を大会テーマとして、5月15日に上尾運動公園体育館で行われた。

本年度の体育大会開催にあたっては、2020年開催の東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、昨年、本学が連携協定を締結したことから、オリンピック・パラリンピックに因んだ種目を2種目盛り込んだ。また、昨年度、学生組織を見直したことで、本年度は、全クラスから総括がそろい、学生間の連携を図るとともに、競技運営の核となる審判や着順判定を総括学生が担った。

競技の結果は、幼児保育学科2年B組が優勝、幼児保育学科2年D組が準優勝、幼児保育学科2年A組が準優勝、幼児保育学科2年C組が準優勝と、健闘を収めた。

「全国学校給食甲子園」

本学卒業生が決勝大会進出



右から2人目、井上さん (画像提供：全国学校給食甲子園)

全国決勝大会に進む12校・施設の中で、本学健康栄養学科卒業生(平成10年度)の井上祐子(旧姓・近藤)さんが第1次から4次審査を経て、東日本地区の関東代表として12月5日、6日の両日、東京で開催される決勝大会に進出した。



平成10年度卒業 井上祐子さん

卒業して10年以上たった今でも、国際学院埼玉短期大学で勉強したことを覚えています。

卒業後は宮内庁、三笠宮邸へ奉職し、調理講師などを経験し、その後、学校栄養士となりました。今日も今日とて、児童・生徒・教職員と接しながら、給食献立を作成したり、給食巡回

を行ったり、学校給食を担う仕事をしています。そのような毎日を通いながら、私なりにできる食育とはどんなことであろうかと、考えるようになり、給食を生きた教材にするために、地場産物の生産者の声を届ける給食献立

を作成しようと考えました。そして、ひとつのきっかけとして、全国学校給食甲子園という大会に応募すること、足立区とわが校の給食により関心を持ってもらい、食育に繋がるように考えました。

生産者の声を届けるために、地場産の各地を巡り、酪・農・加工業を体験し、生産者の声に耳を傾け、私自身が多くの事を学びました。自分自身の学びこそが子供たちへ伝わり、給食や食育の事への思いと生きる希望へとつながると感じて

に、「食」を楽しんでもらいたい、理解を深めてもらいたい、学校栄養士としての役割が担えるのではないかと感じています。

多くの職業が存在する中、私は栄養士という職業を選択し、その資格を生かして仕事をしています。生徒たちと触れ合いながら、本当に楽しい毎日を送っています。

私が強く感じた国際学院の特色は、栄養士になるための学業のほか、社会人になるための礼儀作法や、教養も習得できたことです。専門的な知識を身に付けて、自分に適した栄養士になるために、視野を広く持つ、ひとりで悩まず、国際学院の先生に相談をし、多くの学びを志してほしいと思います。

学友会活動報告



学友会会長 幼児保育学科2年B組 南 綾香

私は、学友会会長として、様々な経験をさせていたただけでなく、国内でも強豪校に名を連ねる吹奏楽部に所属しており、部の中でも人前で何かを発表したり、人をまとめる仕事をし

ていました。本学への進学生かしたいと思い、学友会会長に立候補し、今、会長として活動させていただいています。しかし、私一人ではできることは限られてきます。一人では無理な時

常総市の水害の義援金集めなどを行っています。体育大会ではじゃんけん大会を行い、大会を盛り上げることにできました。また、地元で開催された「子ども夏祭りひろば」のボランティアでは学友会からの参加の呼びかけを行い、準備段階の会議から参加してきました。

研修を終えて 交流会で親しみ増す 健康栄養学科 栄養士専攻2年B組 青木 萌

2年生のオリエンテーション委員は1年生の頃とは違い、どうすることで新入生が新しい環境になじめるのかというのを考えました。そしてそれを実践に移したのが1・2年生の交流会でした。各クラスにも協力していただき学校の様子などを聞ける機会を設けました。新入生も先輩との交流を経て、リラックスできた様子が見受けられました。

井上祐子さんからのメッセージ

知識大切に、探求心を忘れずに

井上祐子さんからのメッセージ

応募した第10回全国学校給食甲子園にて全国大会へ出場することになり、生徒や地域の方が給食に対してより興味・関心を持ってくださるようになりました。私はこのような形で、子供

たちに「食」を楽しんでもらいたい、理解を深めてもらいたい、学校栄養士としての役割が担えるのではないかと感じています。

多くの職業が存在する中、私は栄養士という職業を選択し、その資格を生かして仕事をしています。生徒たちと触れ合いながら、本当に楽しい毎日を送っています。

私が強く感じた国際学院の特色は、栄養士になるための学業のほか、社会人になるための礼儀作法や、教養も習得できたことです。専門的な知識を身に付けて、自分に適した栄養士になるために、視野を広く持つ、ひとりで悩まず、国際学院の先生に相談をし、多くの学びを志してほしいと思います。

今回の体育大会を通して、人前に立つて多くの人をまとめることの大変さ、協調性の大切さ、全体を見る広い視野等、多くのことを学ぶことができました。これらは、委員長にならなければ気づくことはなかったと思います。この体育大会から学んだことを、残りの短大生活や社会人になっても活かしていきたいと思っています。

